

かいちょう日記
最終回
森と歩んだ80年



☆かいちょう日記も、「創立10周年記念号」(第5号)から貴重な紙面をいやだき、本号までご厚誼いただきました。大変ありがとうございました。ソダネソダネ!

2019年2月末日作成

1988~1991 S63~H3	◎国有林では全国的な取り組みとして、営林局・署でインストラクターを養成した。営林局署にインストラクター会を組織しその代表につくことになった。 この頃から社会的にもアウトドアの流行が始まりました。 ○社会的にもアウトドア活動は日を追うごとに興盛をたどり、愛好者からの要望も多くなり公務員としての公務に専念することが難しくなって、定年2年前に退職することにした。☆1991(H3.4.1)年に40年の勤務を終了する。
1991~2003 H3~H15	☆第2の森人生のスタート ◎退職と共に、森を愛し森に親しむ仲間と「札幌森友会」を起ち上げる。 ○森林や自然を活用し、豊かな心と強健な心身をつくり親睦を深めることを目的とした。 ○1994年から「甦った森林」記念植樹を(元)札幌営林署長と協定実施する。 ○1996~1997年薄別トドマツ人工林の除伐実施 ○1997~2002年定山溪初雪のシラカンパ除伐実施 ○1999~2006年竜巻被害地の樹海再生の森づくりを苫小牧営林署長と協定実施する。 ○2001~現在継続：子ども環境教育「子ども樹木博士認定」。
2003~現在 H15~	☆NPO法人としての活動開始 ○2003年5月13日付で認証される。 ○2003年~継続：札幌市都市環境林「藤野野鳥の森」市長登録する。○2003年~継続：奥定山溪国有林「札幌市民の水源地の森」協定実施中。
2003~現在 H18~	○2005年~継続：国有林エンジュダイラトドマツ人工林除伐・風景整備協定実施中。 ○2005年~継続：野幌森林公園18号台風の再生の森づくり協定実施中。 ○2006年~継続中：支笏湖周辺18号台風被害復興の森づくり実施中。 ○2007年~継続中：全国植樹祭記念の森手入れ、北海道知事と協定実施中。 ◎子供たちの森林環境教育に取り組む ○2007年~継続中：札幌市立藤の沢小学校林「小鳥の村」で「げんきの森づくり」と多様な森林遊び体験指導開始。 ○2008年~継続中：札幌市立駒岡小学校林「こまおかの森」で「げんきで美しい森づくり」と多様な森林遊び体験指導開始。 ○2009年~継続中：さっぽろふるさとの森づくり・きたネットと協働で札幌市長と協定実施中。 ○2008年~継続中：北海道みどりの環境改善活動支援事業に係わるグリーンコーディネーター登録継続中。 “われわれの活動三本の柱” 1. 地球温暖化防止の「森林を守り育む」活動 地拵え・植樹・下刈・除伐・間伐等のげんきの森づくりの社会貢献。 2. 「子どもたちの森林環境教育」活動 学校林を活用して、げんきの森づくり・子ども樹木博士認定・自分の木選定・ツリークライミング・しいたけ栽培・冬の森観察等で、森林を大切にすることを育み、豊かな人間性を培う。 3. 自然ふれあい「癒しと健康増進」活動 名所旧跡・景勝地・溪谷・山岳・湿原・名湯訪問等で、高齢化社会の健康増進を図る。 以上の活動から、安全快適！“自然保全貢献とふれあい活動で励みと癒しを共有し、生き甲斐増幅に努める。

環境の変遷	年代	歩み
1933 国際連盟脱退	1933~1940 S8~15	幼年期：○秋田の田舎スギ山の麓でネッコから生まれたといわれた。 ○4歳頃山守に出会い「オレモナリテイ」森への夢が生まれた。
1941 太平洋戦争	1940~1949 S15~24	小学から中学期：1941~1945年太平洋戦争。 ○戦後の乏しい生活の中から森の学校進学への決意する。
1950 朝鮮戦争勃発	1949~1952 S24~27	「山守」夢の第一歩県立鷹巣農林高校林業科入学。 ○夏休みには地元の営林署で実習(アルバイト)とアイスキャンデー売り等。
1953 朝鮮戦争終結	1952~1955 S27~30	国有林職員：○抱いた夢を実現し、燃える思いで青森営林局大畑営林署初勤務へ・事業課に配置→森林鉄道だけの交通路で20km程山奥の事務所で、ヒバ(アサノ)・ブナ等の天然林伐採現場の見回り。 ○下山したときの楽しみ：映画・パチンコ等とシナソバ(ラーメン) 食べること。 ○1954年洞爺丸台風で北海道の森林被害を知る。
1956 国連加盟 1959 メートル法行	1955~1961 S30~36	北海道生活の始まり：29号台風森林被害整理応援人事。 ○当時札幌営林局転勤→岩見沢営林署事業課勤務 ○一念発起して難関の担当区研修(現森林官)に臨む。 ○北海道応援期間2年のところ北海道での一生決心する。
1964 東京オリンピック 1963 原子力発電成功	1961~1968 S36~43	☆1961年夢に抱いた山守こと担当区主任(現森林官)へ ◎浜益村北端・幌担当区主任へ ○漁師と仲良し・ウニ・アサヒ・魚豊富・イカつけ大漁・処理に困る。 ◎1963年白老町・竹浦担当区主任へ ○造林の拠点担当区・ネマガリダケ地帯の造林に奮闘。 担当区助手2人・現地基幹作業員24名の大所帯
1972 沖縄本土復帰 1978 日中平和友好条約調印	1968~1976 S43~51	☆1968年余市営林署造林係長へ ◎造林営林署と言われた余市営林署へ・区域は余市・積丹・仁木・赤井川。 ○造林作業員約100人の雇用安定闘争激化する。 ○山と海と果樹と果物で楽しい私生活。
	1976~1982 S51~57	◎静内営林署経営課長へ ○高見ダム建設の初期開発行為審査からロックダム建設資材の岩石・立木売り払い等で北電との窓口担当。 ◎定山溪営林署の経営課長へ ○札幌市近郊署として、札幌市民の水源地の森豊平峡ダムや天然林施業で先駆的な取り組み。
	1979 S54	☆札幌営林局から北海道営林局へ
1988 青函トンネル開通	1982~1988 S57~63	☆北海道営林局・経営部造林課勤務 ◎造林課・保護係長として、管内16営林署と道内4営林局の連絡とりまとめと林野庁との窓口、森林総研との情報交換等。◎造林課・造林係長として、国有林森林づくりの指導調整の立場となる○予算窮屈で林野庁に要望と営林署に能率推進の厳しい調整に努める。
1989 平成時代	1988~1991 S63~H3	☆営林局・企画調整部・技術開発主任官として ○森林の造成から管理に亘る技術の解明を図ることで、関係機関やら特に森林総合研究所との情報交換などで交流が多く、技術と理論を深めることが出来た。

かいちょう日記・最終回
森と歩んだ80年

NPO法人
森林遊びサポートセンター
札幌森友会
代表
小林文男

